

## 小麦新品種「ニシカゼコムギ」

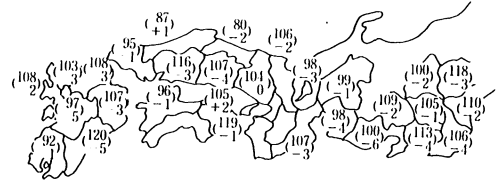
野中舜二 (九州農業試験場)

Shunji NONAKA : A New Wheat Cultivar "NISHIKAZE-KOMUGI"

早生良質多収小麦品種の要望にこたえて、九州農試ではシロガネコムギ、セトコムギ、チクシコムギ、アサカゼコムギ、ミナミノコムギ等の新品種を育成してきた。これら品種は主力品種である農林61号等に置き換わって順調に普及し、1985年産では九州地域の作付面積の約半分に達している。中でもシロガネコムギ、アサカゼコムギの2品種は、早生、短強程、良質多収で、水田2毛作地帯における省力多収穫栽培に適するというので、九州だけでなく、関東地方まで広く普及している。

小麦の作付が激減していた時期には病害がさほど問題にされなかったが、生産の回復に伴って各種病害が目立ってきた。上記の2品種は縞萎縮病に強く、赤かび病にも農林61号と同程度に強いが、赤さび病およびうどんこ病に弱く、特に1982年にはかなりの発病があり、その対応の必要性が痛感された。

1984年11月、アサカゼコムギと同様に良質多収で、穂発芽性難、縞萎縮耐病強のほか、うどんこ病および赤さ



第1図 配付先における収量指数と成熟期差  
(各県農試本場、標準栽培法各年次平均)

品種名	県名	品種名	県名
農林60号	宮崎	シロガネコムギ	兵庫
オマセコムギ	鹿児島, 愛媛, 島根	農林26号	京都, 山梨
セトコムギ	香川	ヒヨクコムギ	岐阜
シラサギコムギ	徳島, 広島, 岡山	ウシオコムギ	鳥取

注1) 成熟期は標準品種との差で-は早いこと、+は遅いことを示す。  
2) 標準品種は上に示す以外は農林61号である。

び病にも強い新品種「ニシカゼコムギ」が育成されたので、来歴、特性の概要などについて報告する。ニシカゼコムギは、登熟期に雨が多く環境条件の良くない九州地域においては、各種被害を受けにくい麦作安定上きわめて有利な品種ということが出来る。初年度の奨励品種採用は福岡県だけであるが、1985年度には大分、宮崎両県が採用を予定し、佐賀、長崎、茨城など数県においても極有望視されているので、今後更に奨励品種採用県が増加するものと思われる。

## 1. 来歴および育成経緯

早生、短強程、良質多収の西海120号(後にシロガネコムギとして登録)にウシオコムギの耐病性を導入する目的で、1970年4月に交配を行い、1974年度F<sub>5</sub>で派生系統とし、その後選抜固定を図ってきた。1979年度F<sub>10</sub>で「西海154号」の系統名で各県農業試験場における奨励品種決定調査の供試材料として配付し、地方適否を検討してきた。その結果、1984年11月「小麦農林129号」として登録、「ニシカゼコムギ」と命名され、福岡県で奨励品種に採用された。

## 2. 特性概要

1) 形態的特性 叢性はやや直立型で、冬季の葉色はやや濃い。程長はやや短で、農林61号より10cm程度短い。穂は褐稈、紡錘状で、穂長はやや短い。粒着の粗密は中、農林61号に比べて1穂小穂数、1穂着粒数ともにやや少ないが、穂数は多く、株の開閉はやや開である。

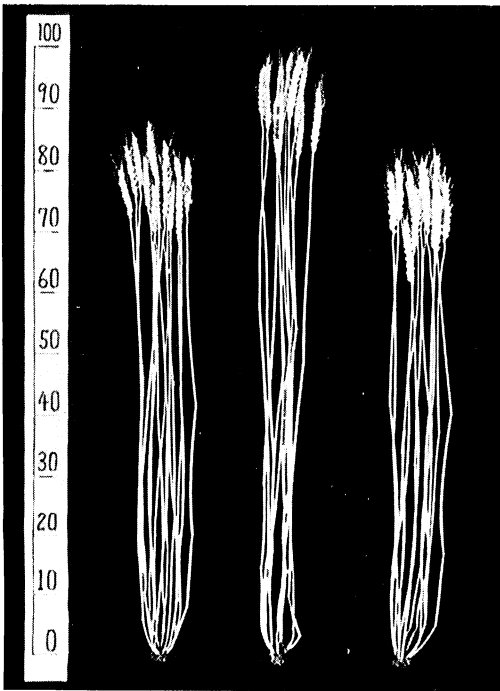


写真1 左から新品種ニシカゼコムギ比較品種農林61号およびアサカゼコムギ

2) 生態的特性 播種程度はⅠ～Ⅱ、莖立性はやや早である。農林61号に比べて出穂期で7日、成熟期で4日程度早い早生種である。耐倒伏性は強い。耐病性は縞萎縮病、うどんこ病に強く、赤かび病、赤さび病にも比較的強い。アサカゼコムギ、シロガネコムギに比較して、うどんこ病および赤さび病耐病性ははるかに強い。穂発芽性は難で、栽培品種中では最も穂発芽しにくいグループにはいる。

3) 品質 粒の色は褐、粒の大小、千粒重、1重いずれもやや大、粒は豊満で充実良く、見かけの品質は優れている。製粉特性は製粉歩留、ミリングスコアともに高く、農林61号よりも製粉性が優れている。粉色はやや黄色味が強い。ブラベンダー特性は総じて農林61号に類似するが、わずかに薄力的である。めん適性は農林61号と同等かわずかに優れる。

4) 収量 ごく多収で、育成地においては農林61号より20%以上量が多く、特に多肥栽培で安定して多収を示す。関東地方以西の温暖な平坦肥沃地帯で総じて早生で多収を示し、広域適応性も大きい品種と思われる(第1図、第1表参照)。

### 3. 適地および奨励品種採用県

第1図にみられるように、ニシカゼコムギは関東地方以西の温暖な平坦肥沃地帯において、標準品種よりも早生で多収を示しており、これら地帯に広く適応する。更に本品種は各種耐病性に強く、穂発芽性難などの優れた特性を備えているので、登録期間に雨が早く環境条件の良くない九州地域においては、麦作安定上きわめて有利と考えられる。

初年度奨励品種採用の福岡県では、農林61号、チクコムギ、シロガネコムギ等に換えて、当面3,000ha程度の普及が見込まれている。

### 4. 栽培上の注意

ニシカゼコムギは穂がやや小さく、穂数で多収をあげる品種なので、穂数確保に努める。またやせ地や少肥条件下では十分に収量が上がらないのでこれを避け、やや多肥条件下で栽培すること。

### 5. 命名の由来

ニシカゼ(西風)は九州地方では好天の風である。その風に乗って広く普及することを意味する。

第1表 ニシカゼコムギの主要特性

調査項目		九州農業試験場			福岡県農業総合試験場		
		ニシカゼコムギ	農林61号	アサカゼコムギ	ニシカゼコムギ	農林61号	アサカゼコムギ
生育特性	出穂期(月日)	4.11	4.18	4.9	4.18	4.22	4.16
	成熟期(月日)	5.30	6.2	5.28	6.6	6.9	6.4
	穂長(cm)	80	87	75	80	90	74
	穂長(cm)	8.6	9.8	9.4	7.9	8.8	8.6
	㎡当たり穂数(本)	419	353	361	564	492	479
実特性	収量(kg/a)	51.3 (118)	43.3 (100)	50.0 (115)	51.0 (108)	47.2 (100)	47.8 (101)
	標準多肥ドリル	56.4 (122)	46.4 (100)	53.7 (116)	47.7 (99)	48.3 (100)	49.9 (103)
	1kg重(g)	53.9 (124)	43.5 (100)	54.5 (125)	57.8 (125)	46.1 (100)	56.8 (123)
	千粒重(g)	790	774	775	775	772	758
	外觀品質	36.9	34.4	37.8	37.9	37.1	37.5
加工適性	製粉歩留(%)	72.4	71.9	71.6	71.8	69.8	70.0
	60%粉灰分(%)	0.41	0.52	0.39	0.45	0.44	0.36
	ミリングスコア	85.7	78.7	85.6	82.5	81.0	85.1
	粉明るさ(R551%)	73.8	73.7	74.4	75.0	75.4	75.7
	黄色味	0.131	0.134	0.121	0.142	0.137	0.126
	ファリノV.V.	46	46	46	40	41	42
	アミロ最高粘度	600	615	550	630	720	600
ゆでめん総合評価	67.3	67.3	71.0	71.0	59.0	69.7	
耐病性等	縞萎縮病	強	やや弱	強	九州農試		
	赤かび病	中	中	中	九州、鹿児島および高知県山間農試		
	うどんこ病	強	中	やや弱	九州、長崎県農試および農研センター		
	赤さび病	中	中	弱	九州農試		
	穂発芽性	難	難	難	〃		
	耐倒伏性	強	中	極強	〃		
	播種程度	Ⅰ～Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	〃		

注) 1) 九州農試は1977～1983年度、福岡県農試は、1979～1983年度の成績  
 2) 福岡県農試のドリルの項の記載は、1983年度の早播多肥栽培の成績  
 3) 加工適性は1984年産についての食品総合研究所における試験成績